

○全労働者諸君に極す

見よ温情を誇る住友の暴虐を!!!

吾々は別子鑛業所の労働者多数の意志に基き、労働者の生活を改善するため、歎願書の提出を決意し、去る五日以來、理非を正し條義を盡して會社當事者に面會を求めた、然るに惨忍粗暴なる會社當事者は常に面會を拒否するばかりでなく、守衛、消防夫(自己專屬の)等を以て暴力團を組織し、暴力をもつて吾々の代表者を脅迫し、吾々の正しき歎願をシユリンし去つたのである。然も尙吾々は組合の統制に服して秩序を重んじ、紛擾に陥ることを避け、節制ある團体的行動を爲さんとしてゐたのである。然るに頑冥狂惡なる労働課長鷺尾勘由治は山の各部落に三日間に亘つて、或は事實を捏造し、或は誇大に僞はり、組合撲滅を演述し、九日午后、其の下山するにあつては數百(約五百)の労働者に作業を休ましめ、これに日給を支拂つて自己の従者の如くに裝ひ、昔の王侯も尙及ばざる傲慢を極め更に鑛業所を關に於ては酒食を供し、自己の萬歳を叫ばしめるなどの狂態を演じ而して遂に之等數百の労働者をして我が組合事務所を襲撃せしめるに至つたのである。この暴行騒擾が彼の煽動によると否とは別として、この突然の襲撃を受けたる組合には折から僅かに十一、二名の組合員ありしのみにて、彼等の暴行騒擾を抑壓すること能はず、約半數の負傷者を出しながらも勇敢に自己を守り、組合を守つたのである。然も警察は事後に初めて出動すると云ふ有様である。

諸君、労働者の労働條件の改善のためには、直接關係のない全國の労働者が進んで應援するにも拘はらず、果して斯の如き仲間を陥れる暴行騒擾が數百の労働者の心底からの欲求であるうか、吾等は斷言する。僞善團體改善會の小數幹部こそ利慾に迷つて鷺尾の手先となつてゐやうが、大多數の労働者諸君は事情に暗く彼のためにタマサレたものに過ぎない、必らず自己の眞實に進むべき道を發見して吾々の組合に参加し來ることを信する。諸君、われは此の暴行を前にして敢然として死を賭して守戰することを主張する。争議は一刻毎に白熱化するであらう。諸君の物質的、精神的の援助を切望する。

大正十四年十二月十日

愛媛縣新居郡角野村

別子鑛業所爭議團本部
日本鑛夫組合別子鑛山支部

59字